

## 一人ひとりの力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか

### I 研究の内容

#### 1 研究の柱

##### (1) 子どもの課題や実態にあった題材と授業づくり

- ・目の前の子どもの課題や実態をつかみ、ねらいを明確にして、より造形的な資質や能力が発揮できる題材の研究をすすめる。
- ・様々な場面で、子ども一人ひとりに表現する喜びを感じさせる。また、その表現を通して、子どもが自分や周りの人々、社会、自然や環境などを見つめ、子ども自身が主体となるような授業の組み立て方を工夫する。

##### (2) 子どもの表現活動によりそう支援のあり方

- ・子どもの思いによりそう支援のあり方を考える。
- ・子どもが何に悩み、考え、試行錯誤した末、どのような表現につながったのか、活動の様子を観察、子どもとの対話、スケッチや記録など、いろいろな方法で作品や活動を読み取る研究をする。

##### (3) つながりと広がり、先を見通した実践の積み重ね

- ・子ども同士が関わり合い、話し合うなど、互いに学び合うことのできる場の設定を試みる。
- ・題材と題材の関連や小・中学校の連携を考えたり、他教科との関連を図ったりすることで、子どもや学校の実態に応じた、系統的・発展的なカリキュラムの工夫をする。
- ・子どもの生活を取り巻く地域や社会、それに関わる人々とのつながりをもった美術教育を通して、自分自身や社会を見つめていけるようにする。

#### 2 研究方法

- ・授業研究を実施し、授業の在り方を考える。(年2回)
- ・1人1実践による作品研究を行う。
- ・実技研修(陶芸制作)を実施し、授業に還元する。
- ・学習会(山梨大学 新野貴則准教授)による理論研究を行う。
- ・研究会場を持ち回り、各校の展示環境などを参考にする。

### II 研究実践

#### 1 小学校の実践から(8月統一授業研)

第2学年「ひみつのヘルメットで大ぼうけん！」 井尻小 青柳 仁美教諭  
家庭用のざるを素材にして、冒険に出かけるためのひみつのヘルメットをつくるという

題材である。子どもたちが題材の世界観に浸り想像を膨らませ、つくりたいという意欲を高めるための工夫が随所にされていた。特に導入では実際の通販会社の箱に手紙と素材を入れ、2年生に荷物が届いたので開けてみるという仕掛になっていて、子どもたちの課題や材料に対する関心が一気に高まっていった。身の回りにある様々な材料や子どもたちにとって新しい材料に触れることもでき、楽しい活動をする事ができた。

## 2 中学校の実践から（2月統一授業研）

第1学年「ここが最高！勝中自慢」

勝沼中 中田あさみ教諭

この題材では、4月から過ごしてきた中学校の魅力を、自分なりの視点で、様々な材料を使って効果的に伝える表現活動を行った。まずワークシートを工夫して、生徒が自校の魅力はどこにあるのかつかめるようにした。そして自分のテーマを伝えるためには、どんな材料や表現方法を選択すればいいのか考えることにより、絵を描くことが苦手と感じている生徒でも、その子なりの表現を追求しようとしていた。また研究授業で明らかになった課題を次時に生かすなど、授業者の研究に対する意欲も強く感じられる実践であった。

## 3 県教研レポート

「一人ひとりの力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか」

神金小 広瀬きよ美教諭

子どもたちの経験の少なさを補いながら、体全体を働かせてつくることの楽しさを味わわせるために、指導計画の工夫や、材料とふれ合う時間の確保を行った実践。「しんぶんしとなかよし」「どんどん どんどん つないで つないで」「ぱちぱち ぱっちゃん」と、新聞紙や紙を扱った題材を関連づけ、1つの題材が次の題材につながるようにしてとりこんでいった。単元を関連づけることで、子どもたちが材料や素材と十分にふれ合い、試しながら活動することができ、「もっとこうしてみたい」という意欲を引き出すことができた。

## III 成果と課題

同じテーマで継続した研究を行っており、研究の積み上げができています。また新指導要領についての学習会により、子どもたちの学びを見つめ直すことができた。研究を通して子どもたちの力を引き出し、やってみたいという意欲を高めるために、題材名や題材・材料・用具との出会わせ方などを工夫することができた。小中で研究することにより、発達段階に応じた題材や材料の設定なども学ぶこともできている。本部会が子どもたちの力を引き出すためにどんな工夫ができるのか、部員同士が気兼ねなく意見の交流をする場となり、そこで学んだことを研究授業や各自の実践に環流できたことも大きな成果といえる。

部員数が少なく、部会員以外への研究の広がりをもたせることが必要である。子どもたちの「力を引き出す」ことを大事にした題材や授業づくりについて更に研究を深め、部会から発信・啓発できるようにしていきたい。

（部長 古屋 ゆか）